ゲームマシン
THE GAME MACHINE

発行所
日本出版企画制作株式会社
大阪市北区木幡町45　アドビル401号
〒530 電話 06（314）1458（代）
東京支社 東京都渋谷区渋谷3-6-18 荻津ビル 4F
〒150 電話 03（407）7628
郵便振替　大阪 41959
年間購読料（送料共）7,200円

4月2日　東京　　主催・全日本遊園協会

望まれるゲーム機メーカーの参加

健全娯楽推進・物品税法基本通達改正についての説明会

全日本遊園協会（略称ＪＡＡ、事務局＝東京都渋谷区渋谷三の六の十八、荻津ビル、遠藤嘉一会長、会員百三十四社）では、四月二日、東京において「健全娯楽の推進および物品税法改正についての説明会」を開催する。

同協会の会員にはメダルゲーム関係の会員も多数加入しているが、スロットマシンにかかる物品税取扱いが四月一日より実施されるのを機会に、説明会を開催し、あわせて違法営業一掃の会合とする予定。そのため関係本庁から講師を招くなど内容もしっかりしたものとなる。

説明会の要領は次のとおりであり、今のところ東京以外で開く予定はないが、同協会では遠方の方や非会員の方にも参加してほしいと言っている。

開催日時＝四月二日午後一時より。開催場所＝東京駅八重洲北口下車、鉄道会館、ルビーホール。☎〇三（二一一）五六一一。参加費＝会員は無料、非会員は一名千円。

講演内容①「健全娯楽の推進（報告）」講師＝警察庁刑事局保安部防犯少年課警視、内田進氏。②「遊戯機に関する物品税法改正について」講師＝国税庁間税部消費税課物品税係長、江川治美氏。

スロット以外のゲーム機も

スロットマシンにかかる物品税は、物品税法第一条、別表八の5にあるとおり、20%の税率でかかる。ところがスロットマシンには類似品が多いとの見解に立つ国税庁は、昨年八月に物品税法基本通達を改正。事実上、スロットマシンのみならず、スロットマシンに近いゲーム機をすべて課税対象にしてしまった。なお、この通達改正により納税などの準備に時間が必要との考えから、改正に伴なう取扱いは今年四月一日から、となった。

通達改正で課税対象となった「スロットマシン」は【課税物品の取扱い】にあるとおり、技術介入のないゲーム機で、絵柄や数字の組合せによってメダルアウトするか得点表示するかするもの。なお、昨年十二月に国税庁からの回答で、矢形の針や電光がクルクル回るゲーム機で、指定する箇所が一箇所のものはルーレットであって、スロットマシンではない。ということがはっきりした。もちろんそうでないゲーム機で、基本通達にあてはまるものは、すべて物品税がかかる。

なお物品税は申告制になっており、スロットマシンのような「第二種」の物品は、製造所から出荷される時点で、その時の価格をもとに課税される。ただし、実際はさらに厳密な区分に従って行なわれるので、各地の脱務署に相談するのもいい方法だ。いずれにせよ、ゲーム機のメーカーは製造所の届けもせねばならないなど、多くのことが必要。その点、ＪＡＡの説明会は大いに役立つ。

【課税物品の取扱い】

＝「基本通達」による。スロットマシンとは、遊戯者の技能が介入しない遊戯具で、メダル又はコインを投入して作動させると絵柄、数字等の種々の組合せができ、その組合せの種類によりメダル若しくはコインが払戻され、又は得点が表示されるものをいうものとして取扱うこと。（注）「遊戯者の技能が介入しない遊戯具」には、自動停止式のもののほか停止装置を有するものも含まれる。

＊　＊　＊

論潮

無視できぬ物品税

税金というものはあまり好まれるものではない。だいいち、税金はお役所がかけてくるものだと、納税義務者のほうからどうぞかけて下さいと頼んだわけでもない。お役所とは言ったが、もともとは国民が選んだ議員によって、決定したとおり課税していることは当然知っている。だがそれでもどうも納得した感じになれない。

税金には国税と地方税とがあるとか、直接税と間接税とがあるとか、そういうことはこのさい省略して、どうやら納められた税金が、国や地方自治体の費用をまかなうのに、多大の貢献をしていること――そのことも、よく知られていることだろう。だから、課税の趣旨や方法、納められた税金の実質上の使いみちなどで、しばしば疑問を感じるのだろう。

歴史的に言えば、税金をとるということは、国民から税金として奪いとることであり、国民を押さえることであった。しかし、現代ではそうではなく国民のために、納得できる税のとり方たが行なわれる、ということが前提になっている。だから納得できるかどうかがいぜんとして問題なのだ。

ところで物品税というのは少し変りダネである。つまり、外国にはほとんどない制度だからだ。日本ではこれを、ぜいたく（奢侈）品や便利品などを中心に、多くの物品を課税対象にしている。具体的には物品税法にそれらが掲げられている。

そのひとつである「スロットマシン」は、しかし、相当ややこしい事情を背後に控えている。そのうえ、事実上20%もの税金がかけられているのである。たとえば百万円相当のゲーム機（スロットマシンと見なされるもの）なら二十万円の税金がかかる。十台なら二百万円、百台なら二千万円である。（実務上の計算ではなく、ここでは大まかな計算であるが……）

機械の取扱にも大きな影響がある。A社、B社ともに同じ種類の「スロット」メーカーだとし、A社は物品税込みの価格で、B社は脱税する価格でそれぞれ出荷した、とする。B社は脱税で捕まり、税金を追徴される運命にあるが、出荷の特点だけを見れば、A社より安い価格で競争できる。これは公正な競争ではあり得ない。

正しい知識と正しい業務、その他多くのことがまだまだ必要だと思われるわけである。

不法営業一掃を訴える

日本娯楽機械オペレーター協同組合

日本娯楽機械オペレーター協同組合（事務局＝東京都渋谷区東一丁目二番二号、理事長内田博氏、加盟組合員二十八社）では、二月十三日に不法営業一掃を決議。きびしい姿勢でのぞむことを明らかにしている。

同組合の設立は二年前の昭和四十八年二月。正式に認可されている公益法人で、メダルゲーム、アーケード、遊園地などにおけるオペレーターの全国組織。発足以来、二カ月に一度の例会、機関紙「JOUオペレーターニュース」の刊行、海外研修、情報交換、セミナー、ロケーション見学など、積極的に多彩な活動を続けてきている。

もともと健全娯楽の業者だけに、ここ一、二年の間の違法営業のハンランで、かなりの迷惑を蒙っていることも、これまた厳然とした事実。そこで、あらためて不法営業の追放をはっきり示したのが今回の決議である。

決議文では、不法業者のために受けた被害も例として掲げられており、深刻な状況が訴えられている。またゲーム機を扱う業者に対して、きびしい内容の要望が述べられており、不法業者をチェックしていかねばならないことが強調されている。

なお、この決議文の全文は、左に掲げたとおりである。

話し方教室を開催

また、同組合の組合員各社では、つねに客を相手に営業している関係から、三月四日、東京新宿レインボーホールで「話し方教室」を開催。組合員各社から約百名が参加、大きな成果をあげた。

この「話し方教室」では、話し方教室の創始者である江木武彦氏（言論科学研究所所長）を講師に招き、接客態度、部下への指導法、人と人とのコミュニケーションの基本、生活において話し方というものがいかに大切か、などの講演が行なわれた。もちろん、この教室がゲームコーナーなどの運営に役立つことは間違いない、と言われている。

なお、同組合についての問合せは、事務局☎〇三（四〇九）五二三二まで。

江木武彦講師に聞入る参加者

不法営業一掃のための要望書

日本娯楽機械オペレーター協同組合は、健全で良質な機械娯楽を提供する優良オペレーター（娯楽機械管理運営者）の全国組織であり、中小企業等協同組合法に依り正式に認可を受けた組合であります。

各組合員は永年に渡り夫々の地域の市民に対し、明朗な機械娯楽を廉価で提供して参りました。私共の営業所は健康な市民の一家団欒の場であり、また孤独な余暇時間の従順なプレイメイトであります。

営業に当りましては、適法営業を心掛けるのは勿論のこと、お得意様の安全、適正な料金、青少年の不良化防止等に細心の注意を払って運営して参りました。機械を前にしてのお客様の無心の笑顔が私共に対する最大の讃辞と考え、日夜努力をしております。

しかるに一方、最近の一連の報道に見られるとおり、ゲーム機械を媒体とした賭博営業は目にあまるものがあります。当組合員である各地の善良なゲーム機械オペレーターは、このような不法行為のために有形、無形の被害を受け、困惑しております。

ゲーム機械オペレーターに対する社会的評価が、事件に刺激されて低下しつつあります。長い時間をかけて努力し、築きあげてきた社会的信用が、新規に参入した一部不法業者のために失なわれはじめているのです。

あるオペレーターは、ロケーション・オーナーから、より刺激の強い機械の導入を強く要請され、それを断わったためロケーションを失なうといった例さえ出ており、健全な業者の営業権が侵害されつつあります。

この様な状況に鑑み、日本娯楽機械オペレーター協同組合は、全娯楽機械業者に対し、健全営業の堅持を呼びかけると同時に、特に販売業者に対して、次のように要望します。

1. 娯楽機械の販売業者は、取引先の徹底的な信用調査を行い、不法営業を行う可能性のある者への販売を自粛すること。
2. 販売先の運営状況に常に留意し、適法営業を指導すること。
3. 業界の過当競争を避けるため、新規業者への販売については[illegible]重を期すこと。

更に取締当局におかれましては、日頃の違法営業摘発の御成果をあげられていることに深い敬意を表すると同時に、今後ともより一層峻厳なる取締を継続され、善良な市民の保護と健全な業者の育成に御尽力下されます様、強く要望する次第であります。

昭和50年2月13日

日本娯楽機械オペレーター協同組合
理事長　内田　博

アミューズメントショー 10周年のサービスマシン

サービスマシン㈱（本社＝札幌市中央区南八条西十一丁目石山通、佐藤実社長、☎〇一一（五六一）一四三〇）では、三月九日から三日間、「十周年アミューズメントショー」を開催し、好評を博した。

同社は北海道において娯楽機や自動販売機を扱っており、道内各地に営業所を設けているが、今年は同社の創立以来ちょうど十周年を迎える。例年、同社では新機種展示会を開催しているが、今年は十周年記念として大規模に行なった次第。

開催地は札幌市中央区北一条西十二丁目、厚生会館で、九日から三日間連日、多数の人が押しかけて、大成功。㈱タイトー、㈱セガ・エンタープライゼスなど十一社の協賛を得て、出展機種も多数。内容はフリッパー、ビデオゲーム機などアーケードゲーム機が六割、あと三割をメダルゲーム機が占めた。

藤原満洲夫氏（藤商事会長）死去

雀球の大手メーカーおよびリースで知られている㈱藤商事（本社＝東大阪市荒川三の十四、松元道子社長）の会長、藤原満洲夫氏が、三月四日、肝臓ガンのため自宅にて死去。六十五歳。

藤原満洲夫氏は昭和三十年。友人とともに雀球を考案。製造に着手する一方、リース業も開始。その後雀球一筋に邁進、昭和四十一年に同社を資本金百万円で設立した。雀球のほかチャレンジボールや両替機の方向での進出もめざましく、現在資本金千八百万円。年商十億円。

告別式は翌五日で、喪主は松元社長。永山衆議員議員、矢野公明党書記長、全日本遊技業協同組合連合会前角理事長、日本遊園協会末佐副会長ほか、多数が参加した。

ゲームコーナー拝見

カマボコとハンペンはどこへ行ったか

田村　収

初体験の記憶の鮮明に残る。四十路にかかった中年男が、ゲームコーナーの客となったのは、昨年の秋、ほろ酔い気嫌の宵であった。

メダル押し落し機

これ以上の梯子をしたら、あしたがしんどいという計算もあって、難波をめざす途中で道頓堀の古びた蒲鉾屋に立ち寄り手づくりで旨いといわれるカマボコの小さいのをひとつと、キクラゲ入りの白いハンペンを買い求めた。

もう確実に中古品の類に達した女房の顔が、いささかなりとも弛むのを期待しながら一万円札を出すと、トウガラシが赤くならないで、そのまま白っぽく萎びてしまったような老婆が〝うちゃあ両替屋とちゃう〟とかなんとか、ブツブツいいながら、奥目でこっちの面に穴があくほど覗きこんでくれた。

みかねた同行のA君とM君がポケットの小銭をさがしてくれ、その場はおさまったが、ボクはしらけた。帰り仕度のつもりだったささやかなショッピングが、かえって阿吽（あうん）の呼吸を乱した。

若いA君にさそわれるまま、すぐ隣りにあったゲームコーナーの、耳をつんざくような音量のなかにはいる。

そこはあまりにも暗かった。

しばらくは立ちくらみ症状のまま、あたりを見回し、ともかく紙幣を硬貨に換えてくれるところを見付けた。

小遣銭としてはめったに持たない札が、蒲鉾屋の文句も聞かず、地下鉄売店の横柄な不快感もなく、さりとて銀行の馬鹿丁寧さも感じさせないで、ここではきわめて事務的に両替されて戻った。

硬貨をメダルに変えてマシンの前を持ち歩く。これは明らかにパチンコ店でのパターンだ。歩きながらエッチなボクは、〝この暗さは、スワッピングか乱交パーティーにふさわしい〟〝こんな暗いところで遊ぶなんて、闇夜にカラスが交尾するみたい〟なんて、とりとめもなく思っていた。

すでにA君はルーレットと、M君はスロットマシンと取り組んでいる。触れなば落ちなんかのごとき《メダル押し落とし遊び機》が目にとまる。というより、女の子がいちばん多く群がっていたと言った方が正直かもしれない。

いとも簡単明瞭はペニーフォールとやらと遊ぶうちに、ふたつのことが判かった。

ひとつは、ゲームコーナーの暗さが、マシンと対するプレーヤーの目を一点に集中しやすいように配慮した、いわばストリップショーの照明を縮少したものである点。

ひとつは、ペニーフォールのメダルがプレーヤーの方ばかりに落ちないで、見えない楽屋裏にもポトポト落ちている点。

これはショックだ。そんなことが判らないで、いささかでもゲームに興じていたのが気はずかしかった。

遊びの〝三原則〟

初体験にはうぶがつきものとはいえ、十七歳のボクはひとりで登楼し、ちゃんとツーホールを取り違えることなく行なったのであるからにして……その時、知らなかったのは、やりて婆さんに、なにがしかのチップを渡さなければ、予定時間の前にお呼びがかかるということだけだったのに。

やはりボクは欲に目がくらんでいたのだろう。そそくさと残ったメダルとハトロン紙の包みを持って、こんどはスロットマシンの前に立つ。

受皿いっぱいのメダルを出して、威勢よく、楽しそうな周囲のヤングたちとはうらはらに、おどおどした手つきでメダルを一枚ずつ入れ、ハンドルを引っ張る。

なにがどう合ったのか時折、一枚か二枚のメダルが、かすかな音とともに落ちてきたが、所詮は減る一方の遊びではあった。遊びといえば……

①目的を持たず、②お金を費さない、③後悔しない、が三原則である。それで充分に楽しくなければ、ほんとうの《遊び》とはいえないという。

とすれば、これまでかなり幅広いレパートリーを持ちながら、本質的な遊びを知らなかったことになる。遮二無二働き続けることに、なんの抵抗感も持たないでいままで生きてこられた、人間性回復以前の中年男だからこそ、遊びのなかにも、稼ぐ目的やら、人生の指針となる哲学やらがなければ、なんとなく申し訳ないような気持になってしまうのだ。

そのせいであろうか、畜生の上に赤の他人が乗る競馬や、八百長が意のままに演出できると考えられる競輪、競艇などとは全くの無縁だった。

だから、将棋、囲碁、麻雀、玉突といった類いに、それなりの楽しみを見出せてきたのだろう。

また、機械を相手の遊びでは、パチンコだけを愛好した。これには機械を選ぶ目的と、己れが玉を弾く技量とが、かなりの線までマシンに肉迫できるからだ。

西洋的なスロット

しかし、こうしてスロットマシンの前に立っていると、これまでのボクの遊びがずいぶん東洋的であったことに気付く。三時間も四分間も一台のパチンコに面し、直立不動で対決したり、素人のくせに二時間もかけて一局の将棋を指したり、まさに座禅にも等しい行為であったと思い至る。

それに比べ、ゲームコーナーのそれは、西洋的合理主義というのか、あまりに己れの立ち入る隙が少ない。だから稼げなくても、手持ちのメダルが減っても、一向に精神衛生上の悪影響がないのであろう。

マシンからの明りに照らされた若者たちの顔には、なにかを発散している最中の無心さがあったし、店を出て行くその顔には、発散を終えたあとの透き通った趣が感じ取れた。

こんな単純な若者たちが、これからの日本を支えるとしたら、いったいどうなるのだろうか。なんて国粋主義的な心配はやめておこう。

問題はボクの心だ。暖かいゲームコーナーから秋風のしみるはずの表へ出て、まるで逆さクラゲから出てきたばかりの心地よさを頬に感じる。

ああ、それなのに、胸の片隅にやはり後悔が残った。スロットマシンに負けた悔しさではない。あるべきはずのハトロン紙のなかに、カマボコとハンペンの形が見えなかったからなのだ。

探しに戻るには、そこがあまりに暗すぎるゲームコーナーであった。

（たむらおさむ　コピーライター）

本紙に対するご意見、ご批判を「ゲームマシン」編集部までお寄せ下さい。

でたよ！ 名機の中の名機 チャレンジボール777（サンセブン）

新発売!!

1回ゲームCOIN ¥50

風俗営業認定機

777（サンセブン）の特徴

① **パテントPS方式採用でグット安値**
いままでのリレー方式、IC方式をくつがえす特許プリント接点方式を採用したのでコストダウンに成功。同時に故障が減少。

② **メダルの打出しスピードが秒速**
いままでは2枚で約1秒であったのが特許打出し方式で10枚でわずか1.2秒、まさに秒速、マシンガンの速さ

③ **ハンドルに特殊不正防止装置付き**
ハンドルに特許点教標示確認装置があるので精算ボタンを押したあとでも再度ランプをつけて点数を確認

④ **特許PS方式とは？**
プリント接点方式をPS方式という

⑤ チューリップを5個、ラッキーセブンを3個！
ゲーム内容の一新で3倍のゲームの楽しみが味わえる

⑥ しかもあそびの上り役は10役もある

⑦ ゲーム盤の裏に全ユニットが集結

⑧ PS方式が採用されているので追打ちの不正ができない

⑨ 航空機用高級ランプを使用しているので堅牢であり取替も簡単です
数多くのメリットを機内に集結された正に名機の登場です

使用コイン⇨直径25.5m/m×厚 1.65m/m
寸法⇨高さ815m/m×巾520m/m×奥行140m/m
重量⇨30kg
電源⇨AC100V　DC24V
消費電力⇨10W

廉価奉仕

設計・設工及び申請手続一切代行致します

株式会社ベンドジャパン

〒577 大阪市浪速区水崎町18番地 TEL 06(633)8296・(643)3857・3880